

1 テーマ設定の理由

本校は、大村市にある知的障害の児童生徒が在籍する特別支援学校で、小学部児童83名、中学部生徒77名、高等部生徒150名計310名の大規模校である。また、知的障害の特別支援学校において、県内唯一の寄宿舎を設置しており、しま地区等からの児童生徒も在籍している。

本校高等部には、普通科と就業サービス科の二つの科があり、就業サービス科は、今年度で設置から5年目となる。就業サービス科の理念として、「軽度の知的障害のある生徒に対して、専門性の高い職業教育を中心とした教育を行い、卒業後の企業就労による社会参加や自立を目指す。」を挙げている。この理念を基に卒業後の企業就労を目指すために、職業人としての必要な資質、能力を育てるため、働くための知識、技能等の定着を図ることを目指して指導を行っている。特に学校独自の専門教科として設定している「農業」（農作業）、「流通・サービス」（接客や事務作業、清掃作業）を中心にして、実践的に指導を行っている。しかし、卒業の進路先はそれぞれの作業に直結しているのではなく、様々な進路先で対応できる力を身に付けることを目指して各専門教科を通じて指導を行っている。具体的には、体力、挨拶や連絡・相談・報告などの基本的な職場でのマナー、手順に沿って作業に取り組むことに加えて、作業に取り組む中で課題点や改善点を自分たちで気づき、工夫しながら作業に取り組む姿勢を身に付けることを目指している。さらに、就業サービス科においては授業の中心となる専門教科と進路指導を相互に関連付けることで、一人一人が自分の進路先を主体的に選択し、卒業後の継続した就労につなげようと日々の指導を行っている。

就業サービス科を設置して5年目となり、これまでの専門教科や進路指導の在り方を見つめ直し、課題点を整理していくとともに、これまでの成果と課題、今後の展望とを照らし合わせることで、専門教科のさらなる充実につながり、卒業後の企業就労に向けた進路指導の充実につながるのではないかと考え、今回のテーマを設定した。

2 就業サービス科について

(1) 設立からこれまでの軌跡

平成27年12月に策定された「長崎県特別支援教育推進基本計画第三次実施計画」において「平成26年度から3年間掛けて職業学科の設置に向けた研究を進めてきた。その研究成果を踏まえ平成30年度を目処に、段階的に職業学科の設置並びに職業学科の改編を行う。」ことが示され、平成30年1月に第一回となる入学者選考検査を行い、平成30年度4月、職業学科（就業サービス科）を開設した。令和4年度現在、1回生、2回生の計16名が卒業している。

(2) 学科の理念

軽度の知的障害のある生徒に対して、専門性の高い職業教育を中心とした教育を行い、卒業後の企業就労による社会参加や自立を目指す。

(3) キャリア教育全体目標 ※資料1 (P. 6)

将来の自立や積極的な社会参加に向けて、自分の役割を果たすためのスキルを身に付け、実践する中で、自己有用感や自己肯定感、意欲を高め、キャリア発達を促すことで、子供たち一人一人の生きる力を大きく育む。

本校では、校訓、学校教育目標、目指す児童生徒像から、小学部、中学部、高等部各部の教育目標とキャリア教育全体目標を関連付け、それぞれの学部におけるキャリア教育の中で育てたい力を整理している。

高等部段階では、職業及び卒業後の家庭生活に必要な能力を実際に働く生活を想定して具体的に適用するための能力獲得の時期として捉え、人間関係形成能力、情報活用能力、将来設計能力、意思決定能力の四つの能力の育成を目指している。

卒業後は社会人として就労するというワークキャリアの意識付けをするとともに、卒業後の充実した生活を考えていくライフキャリアの視点を各教科学習の中で取り入れて教育活動を行っている。

(4) 就業サービス科と普通科の違い
○各教科の取り扱い(時間における指導)

	就業サービス科	普通科
各教科	国語、社会、数学、理科、音楽、美術、保健体育、職業、家庭、 情報、外国語、流通・サービス、農業	国語、社会、数学、理科、音楽、美術、保健体育、職業、家庭、外国語
各教科等を合わせた指導	生活総合	生活単元学習 日常生活の指導
領域等	特別活動、 道徳 、自立活動 総合的な探究の時間	特別活動、自立活動 総合的な探究の時間

○各種実習や検定、行事

	就業サービス科	普通科
実習	就労体験実習 短期実習 デュアルシステム型現場実習	就労体験実習
検定等	漢字検定 キャリア検定 (清掃・事務アシスタント) 文章入カスピード認定試験	漢字検定 キャリア検定(清掃)
行事	産業エキスパートセミナー チャレンジウォーク アピリンピック	宿泊学習

3 各教科等と専門教科を中心とした職業教育

(1) 各教科

特別支援学校高等部学習指導要領の各教科(知的障害者である生徒に対する教育を行う特別支援学校における各教科)の高等部1、2段階に示す内容を基に生徒の実態等に応じて具体的な指導内容を設定し、高等部3年間を通して計画的に指導できるようにしているが、専門教科以外の各教科の授業は基本的に教科担当者一人での一斉指導を行っている。職員の配置については可能な限り基礎免許保有者を中心に教科担当者の割り振りを行っている。指導の現状として、全体への指導を行った上で個別の対応を行っている手順等の確認が必要だったり、学習内容を理解するまで時間が掛かったりするなど個人によって差がある。

(2) 生活総合(社会、保健、家庭、自立活動、特別活動)

基本的な生活習慣の確立及び異性との関わりや心の発達などに伴って生じる不安や悩みへの適切な対応に関する指導を行う。また、健康管理についての習慣や態度、清潔に保つことや、簡単な応急手当の仕方を実際の生活の中で指導していく。クラスでの毎日の生活を通して、家庭生活の中で必要な仕事を分担し、仕事をやり遂げることで互いに支え合っていることや、手伝いという補助的な意味合いではなく、自分の役割として責任感をもって継続的に実践することの重要性を指導している。

(3) 自立活動

令和3年度までは自立活動の時間を設定せず、教育活動全体で指導を行うようにしていたが、令和4年度から自立活動の時間を設定し指導するようにした。少人数であるため、職員体制や生徒の実態に合わせた学習内容及び目標の設定について、今後さらに検討を進めながら実施していきたい。

(4) 専門教科

学校で設定した専門教科として、1年生は、「農業」と「流通・サービス」、2・3年生は「流通・サービス」を履修している。

特別支援学校高等部学習指導要領では、専門教科「流通・サービス」は、流通業やサービス業が人間の生活を支える産業の一つであるという視点を持ち、商品の流通やサービスの提供などに関わることを通して、地域や社会の健全で持続的な発展に寄与する職業人として必要な資質・能力の育成を目指すことが示されている。その中でも、特にサービス業として顧客のニーズに応えながら協同的に業務を遂行する必要があることを職員間で共通理解して、授業に取り入れている。

○各学年の専門教科の履修状況

		1年	2年	3年
農業		○	△	△
流通・サービス	清掃サービスコース	○	◎	◎
	販売・事務サービスコース	○	◎	◎

◎：二つのコースからどちらかを選択し、2年間継続して履修

「農業」：デュアルシステム型現場実習として、地域の農園での実習を中心に行い、働くために必要な力（基本的な作業に取り組める体力及び挨拶、返事、報告等のコミュニケーション能力）の向上を目指している。

○農業

地域の農家と連携して、農作業を行っている。主に農園の管理、資機材の設営や解体などを農家の指導の下、行っている。第一次産業としての農業の意義や、のこ鎌や移植ごてなどの基本的な農具の扱いについて知り、農作業で最低限必要な知識が身に付くように指導を行っている。

農作業の性質上、のこ鎌や資機材の運搬などでは、安全管理が必須であり、毎回職員2～3名が引率し、適宜、声掛けをしたり、安全な活動に取り組めるように見守り、一緒に作業を行いながら指導を行っている。作業の様子を場面ごとに撮影し、午後からの振り返りの授業にも活用している。

※<農作業の様子>



○「流通・サービス」：実践的・体験的な学習活動を通して、卒業後、企業等で就労し、地域や社会の健全で持続的な発展に寄与するよう社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養うために設定した教科である。

本校では「清掃サービスコース」と「販売・事務サービスコース」に分けており、2年次から生徒の希望を基にし、適性等を考慮して、それぞれの専門コースに分けて指導している。

業務を確実に遂行していくために、主に2・3年生の学習時間で継続して進められるよう、水曜日を除く四日間の午前・午後各学年の授業時間を分けて設定し、各学年が互いに業務を引き継ぎながら学習を進められるようにしている。

○清掃サービスコース

基本的に学校内の定期清掃を行っている。主に各トイレ、窓清掃、廊下、手洗い場などの清掃を定期的に行っている。それに加えて、職員から随時依頼書により依頼を受け、行事等で活用する特別教室等の清掃をしている。清掃道具を正しく使い、汚れに応じて、道具や洗剤を適切に選択しながら、計画的に清掃業務を行うことを目指している。

授業の流れは、生徒自身で定期清掃表を見て、定期的に清掃されていない場所を生徒同士で話し合い、各自の清掃箇所を決定している。その後、ミーティングを行い、それぞれの清掃業務に取り組んでいる。清掃の道具は、キャリア検定でも使用する、タオル、自在ぼうき、ダスタークロス、モップに加えて、窓清掃に使用するモイスチャーリント、スクイジー、フローリングを磨くポリッシャーなどの専用道具を道具の選択と使用方法を教師と確認しながら、清掃を行っている。3年生になると隣接しているろう学校へ一人で行き、清掃を行っている。

※<ミーティングに使用するホワイトボード>

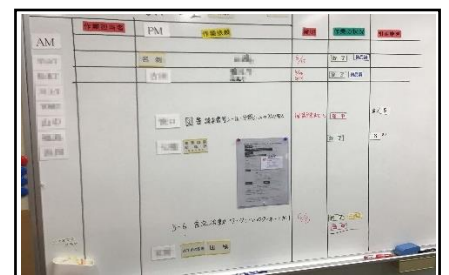


○販売・事務サービスコース

文書印刷、名刺作成印刷、事務業務、接客業務など多岐に渡る業務を納期を意識し、業務に優先順位を付けながら、計画的に業務を行ったり状況を理解して効率的に作業を行ったりすることを目指している。職員が依頼書を提出し、依頼を受けて業務を行っている。具体的な指導内容として印刷をする中で適切な印刷機器等の取り扱いや、接客業務を行うことで、実践的に適切なコミュニケーション方法を身に付けるようにしている。

「虹のまつり」や文化祭などでは、お菓子などの商品を仕入れ、販売にも取り組んでいる。来客者のニーズに応えられるように、商品の種類を検討し、売り上げや在庫の状況から、販売に掛かるコストや販売に適した商品の選定について、教師とやり取りをしながら、流通について学習を行っている。

※<ミーティングに使用するホワイトボード>



4 デュアルシステム型現場実習の実際

(1) デュアルシステム型現場実習の定義

本校では、学校における職業教育と事業所等における就労体験を並行的に実施することが、自立につながるシステムとして有効であると考え、「1週間に1日程度の実習を数週間続ける現場実習」のことを「デュアルシステム型現場実習」として実施している。

(2) デュアルシステム型現場実習の取り組み

働くために必要な力としては、長時間働くことができる体力や、挨拶・返事・報告を身に付けることである。大村市は農業が盛んであり、地域資源を有効活用する観点から農園での実習や地域の事業所等での実習を行っている。

(3) 本校のこれまでの実施状況

1年目 (令和元年度)	福田農園(農作業):週1回(1学期) おかしのフルカワ(商品のピッキング):週1回(2、3学期) あんしんハウス富の原(清掃):週1回(2、3学期)
2年目 (令和2年度)	福田農園(農作業):1週間(1週目)、一瀬農園(農作業):週1回(1学期) おかしのフルカワ(商品のピッキング):週1回(2、3学期) あんしんハウス富の原(清掃):週1回(2、3学期)
3年目 (令和3年度)	一瀬農園(農作業):週1回(1学年) おかしのフルカワ(商品のピッキング):週1回(2学年) ※新型コロナウイルス感染症拡大時期は中止 あんしんハウス富の原(清掃)→大村市役所福重出張所(清掃):週1回(2学年) ※新型コロナウイルス感染症拡大防止から、実習場所の変更
4年目 (令和4年度)	一瀬農園(農作業):週1回(1学年) おかしのフルカワ(商品のピッキング):週1回(2学年) 大村市役所福重出張所(清掃):週1回(2学年)

(4) 生徒に身に付けさせたい資質・能力 ※資料2(P.6)

【知識及び技能】、【思考力、判断力、表現力等】、【学びに向かう力、人間性等】の三つの柱で、内容を整理し、生徒に提示して、デュアルシステム型現場実習における目標に取り入れて、身に付けてほしい資質・能力の意識付けを行っている。教師間だけではなく、生徒に対しても指導の方向性を示すことで、一貫した指導につなげていくことができている。また、毎の実習前に目標設定をするとともに、目標設定の指標にしたり、目標の振り返りにも活用したりすることができている。

5 進路指導

(1) 卒業後の進路実現に向けた考え方

進路先を自分で考え、選択していくために各授業と関連をもたせながら進路指導を行っている。特に職業科の授業では、働くために必要な力を身に付けるための学習(ワークキャリア)はもちろん、継続して働くことや、私生活を充実させるために必要な内容の学習(ライフキャリア)についても各学年で重視して指導を行っている。例えば、生活に必要な経費を学習することで、どれくらいの労働時間が必要なのか、生活の場を自宅またはグループホームにするのかなど、自身の進路希望と照らし合わせて、実習先や進路先を考える学習場面を積極的に設定している。

(2) 短期実習

就業サービス科の独自の進路指導の一つとして3日間×2か所(計6日間)の短期実習を実施している。短期実習の特徴として、普通科と併せて実施している就労体験実習に加え、実習の回数を増やすことで、様々な職種を体験することができる。短期間ではあるものの、机上での学習よりも、実際に実習を行うことで、実践的にその業種について理解することができ、卒業後の進路先選択の検討材料にすることを目的としている。また、短期間であることから、通常の就労体験実習において顕在化する生徒の課題点が出にくいというデメリットはあるが、進路希望とは異なる職種に適性を見出したり、チャレンジすることで新たな進路希望につながったりする大きなメリットがある。実習先である企業等に関しても、短期間であることから受け入れも容易であり、本学科の生徒の実態を理解してもらえる場になることもメリットである。実際にこの短期実習から、卒業後の就労につながったケースもある。

(3) 主な進路先

○卒業生16名の内訳

進路先	人数	主な仕事内容
企業	14名	造園業、清掃業、調理補助、事務補助、清掃業、製造業、廃棄物の仕分けなど
継続就労支援A型	1名	鶏肉の加工業
就労移行支援	1名	

6 成果と課題、今後の展望

(1) 「職業」の授業の充実

各授業において働くために必要な力を考える場面を多く設定している。特に就労体験実習の事後学習として行っている実習報告会では、実習を行った生徒がタブレットPCを用いて、実習報告を行い、生徒自身が実習内容や自分の課題点を整理するとともに、他の生徒は自分が行っていない実習先についての情報を視覚的に学ぶことができています。また、実習報告会後には生徒同士による意見交換会を行っている。業種ごとに小集団を構成し、それぞれの業種に必要な能力、良かった点、課題点、実習中に困ったことなどを生徒同士で話し合うことで、情報を共有したり、今後の進路先の選択に生かしたりすることができている。生徒も積極的に質問したり、自分の考えを話したりしている様子が多く見られる。特に1年生は進路先についての知識が少ないため、この実習報告会や意見交換会で情報を得ることで、今後の実習先や業種について興味をもつこととともに、一人一人の進路に対する意識向上につながっている。

(2) 専門教科の整理

専門教科「流通・サービス」に関する校内研究の一環として授業研究を行い、それぞれの専門コースの学習内容の整理や専門教科「農業」の事後学習の在り方などについて授業改善を行った。「流通・サービス」では、各専門コースの特徴を教育課程に反映させることができた。また、「農業」では、生徒主体の話し合い活動を行うことによって生徒自らが自己の課題点を整理し、改善点の検討を行うことができるようになってきた。また、特に「流通・サービス」は体験的な活動を通して、学習を進めており、サービスについては作業を行いながら学習できている。一方で、学習指導要領の指導項目「(1) 流通業やサービス業の概要に関する学習」がまだ体系化できていないのではないかという意見がある。文化祭または虹のまつりでの販売活動を行う際に物や金銭の流れについて学習する場面を設定しているが、年間を通して流通に関する学習を取り入れていくべきか検討を進めていく必要がある。流通について学習する中で、物や金銭、人の流れがあることで経済活動が成立していることを理解した上でサービスについて体験的に学習することができれば、より専門教科「流通・サービス」の学習内容の理解が深まり、授業の中で学んだことが各種実習で般化しやすくなり、一人一人の進路実現に近付くと考える。

(3) デュアルシステム型現場実習の在り方

本来のデュアルシステム型現場実習のスタイルは、実習先の方から指導を受けながら実習を行うスタイルであるが、そのスタイルが確立していない部分がある。週1回の実習であるため、継続して何かをやり遂げる実習内容でないことが多い。そのため業務を最初から最後まで担当することで得られる達成感が得られにくいことが考えられる。生徒一人一人の実態を踏まえ、各コースにおける専門的な学習の幅を広げるためには、公共交通機関を利用し、実習先の幅を広げることを検討していきたい。

(4) 農業の取り扱い

農業では、地域の農園での実習を中心としているが、振り返りの学習をする中で、基本的な農園の管理や農業の意義なども指導するようにしている。就業サービス科の開設時には、農園での作業に関しても「流通・サービス」の中で扱っていたが、実習を中心とした学習内容と「流通・サービス」の内容を照らし合わせ、新たに「農業」として扱うことにした。学習指導要領の内容や授業の時間数を考慮し、農業の知識・技能の内容をどの程度指導していくかを検討していくことが必要である。全ての生徒が卒業後の進路で農業に携わるのではないが、授業で扱う農作業で最低限必要な知識・技能を押さえていくために授業担当者を中心に教育課程の検討を進めていきたい。

(5) 就業サービス科の周知

現在、就業サービス科の周知は、学習の様子ホームページへの掲載や1日体験入学などを通して行っている。それらを通して学科の理念や日々の指導の様子について伝える場面を設定しているが、まだ認知度が高いとは言えない状況である。就業サービス科について様々な方面に知ってもらうことで、自分の進路の選択肢が広がることにつながると考える。特に本校の就業サービス科においては、寄宿舎を利用し、家庭から離れて生活する生徒が多い。これまでの環境とは大きく変わり、親元を離れて生活することで大きく成長する生徒も多い。生徒によっては、中学生時に比べて、はるかに出席率が高まったケースも見られる。そのことから各中学校に対して就業サービス科の理念や学習内容の理解を促し、企業への就労を強く望む生徒が就業サービス科に入学し、入学後の頑張りが一人一人の進路実現につながっていくことを継続的に伝えていきたい。

(6) 専門教科を中心とした進路指導

これまで卒業した生徒はほぼ一般就労を実現している。専門教科「流通・サービス」を中心として全ての学習を各実習と関連付けて指導を行っている。就業サービス科で独自に取り組んでいる短期実習から、就労体験実習を系統的に行い、その後一般就労につながった生徒がいることは大きな成果として考えられる。また、これまでに一般就労している生徒の離職者が一人もないことも進路指導の大きな成果と考えられる。今後も専門教科を中心として、どの職場でも継続して働くことができるような力を身に付けさせ、専門教科を中心とした進路指導の充実を図っていきたい。

資料1 キャリア教育全体目標 ※高等部部分抜粋

キャリア教育で育てたい力		
学部	高等部	
領域	段階 職業及び卒業後の家庭生活に必要な能力を 実際に働く生活を想定して具体的に適用す るための能力獲得の時期	キャリア発達を支援する授業 づくりをするときの手立て
人間関係形成能力	自己理解・他者理解 協力・協同 意思表示 場に応じた言葉 社会のルールに従える 親や担任以外の人にも応じられる 気持ちを表現したり訴えられる	あいて 他人を意識しやすい学習形態
情報活用能力	情報収集と活用 法と制度の活用 消費生活の理解 役割の理解と働くことの意義 情報を自己防衛や危険回避に備える 体内からの刺激に適切に対応できる 手がかりを活用して自己選択や行動調整が できる	まわり 分かりやすい学習環境の整備
将来設計能力	習慣形成 夢や希望 生きがい・やりがい 進路計画 出来上がりが分かった上で取り組める やるべきことが分かった上で準備できる 結果を予測して体をコントロールできる	じかん 見通しの立ちやすい学習展開
意思決定能力	目標設定 自己選択（決定・責任） 肯定的な自己評価 自己調整 支援を受けながら自分で答えが出せる 条件や制限がついても選択できる 悩んだり、葛藤した上で気持ちを整える	じぶん やってみたくなる学習の雰囲気

資料2

身に付けてほしい資質・能力		
【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間力等】
<ul style="list-style-type: none"> ○作業内容の手順や道具の 使い方を理解する。 ○挨拶、マナーなどの基本的 な常識を知る。 ○失敗したときの対処方法や 態度、気持ちの持ち方を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○依頼内容の要点を理解し、 見直しや判断をすることが できる。 ○効率的に作業を進めるため の方法を考える。 ○相手に自分がどう見られて いるか知り、実践に移す。 ○自己の課題の原因が分かり 改善に向け自分の目標を考 える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○最後まで取り組む責任感や 人の役に立っているという有 用感をもつ。 ○仲間の得意・不得意などを 知り、思いやりをもって接する。 ○場や状況に応じた言葉遣い やコミュニケーションをとる。 ○チャレンジする力やレジリエ ンスを身に付ける。